

コーナー展「裁縫ひな型」を開催しました＊



◀展示室の様子

「裁縫ひな型」とは・・・

明治14年(1881)、和洋裁縫伝習所(現・東京家政大学)の渡邊辰五郎により始められたといわれる「裁縫雛形」は、明治・大正期の女学生が、衣服や生活用品の仕立て方を材料、時間を節約して、できるだけ多くを学ぶためにミニチュアサイズで製作するなど工夫されたもの。

卒業・入学シーズンにちなみ、昔の学校教育に関する資料を公開。明治、大正期に女学校の裁縫の授業で生徒が製作した「裁縫雛形」を展示、当時の女子教育として特に重視された裁縫学習とその教授法上の工夫の一端をご紹介します。

会 期

平成28(2016)年3月19日(土)～4月24日(日)

■開館時間：午前9時～午後5時(入館受付は午後4時30分まで)

■休 館 日：月曜日(月曜日が祝日・振替休日のときは次の平日)

場 所

奈良県立民俗博物館 展示室
(大和郡山市矢田町545 大和民俗公園内)

主な展示品

裁縫ひな型(着物、袴、子ども服、外套、仕事着、帽子などの衣類、蚊帳、寝具)、裁縫箱など約30点

ご来館くださいました皆さまに心よりお礼申し上げます。
またのお越しをお待ちしております。

奈良県立民俗博物館